

闘争の決意なれる日 交組合本部ニエース

暴圧更生案の発表期切迫して 吾が組合の戦時編成既に完了

大整理、大暴圧前夜の山下更生案の発表は其の後若干繰り上げられ形蹟で大体九月五日頃の見通しである。従つて此の発表の日こそが具体的闘争の第一歩である譯で、本部指導部は三十日の拡大理事會で従来の方針を更に具体的な戦術的決定にしたので、激然活動方針に拍車をかけて愈々戦時編成に着手した。即ち発表したニエースで一部は報道したが情報連絡委員會は翌日より実行すべく昨日は委員會指導下に午前九時迄の二回に亘つて六班の行動隊が山下更生案反対の声明書を生職場と街頭市民に散布せられた。尚活動上の必要から基金の臨時徴収が指令されたが、二十四時同も至らない昨日の六時迄に全支部とも之を可決した回答があつたが、その内半数は既に納入済みとなつたが、未加入職場で之に應じて納入する模様だ。

都下二十七後國労仲團體

市電争議に我が日交を應機に激起

「日本労働仲連に參加しては日本主義労働組合で都下に有る二十有る口体はその後結成するに至つた。日本労働仲連は親會では、今次の市電争議に就いて日本主義の立場から我が日本交通の闘争方針を全面的に支持し、應援するたために来る九月三日午後六時から麹町区内幸町、幸ビル二階のハツピー、ホームに二十有る團體の代表者を召集することに存した。我が組合の斗争を応援する之等數方の同志大衆は、共產黨又は非口家の存在不運の分子では無く、愛口の至誠と熱血に燃へる口民の結合の力である。我が日交が、右翼的の存在と相違する莫は此の口民的團結力で動かす。口レタリアの階級の口結で動かすに於ける。國民的精神に覺醒した同志大衆は今や我が日交の足となり手となつたのだ。最底の勝利の爲に血戦を覚悟せよ。」

ルンペン紙、日刊大東京社

敵の走狗となつて、デマに狂奔

市政新聞と稱するルンペン共の小型新聞「日刊大東京」は三十一日の紙面を我が本部が三十日の拡大理事會で山下更生案絶対反対の決議を行つた事を更に引き至めて「罷業に反対することになつた」と報道して居るのだ。此の大デマはルンペン記者共が当局幹部から小使らうひるさに戦線攪亂を行つて出したものであるが、奴等は見付け次第に叩き伸せ。